

写真



写真 (No.136①)  
露頭がある南西向きの海蝕崖。  
非対称性褶曲。  
写真左側は崖面が一部崩落している。



写真 (No.136②)  
同上。



写真 (No.136③)  
同上。  
「名護・やんばるの地質」のp113の第12.144図とほぼ同地点、同方向に撮影した写真である。  
非対称性褶曲。



写真



写真 (No.136④)  
嘉陽層の露頭。  
非対称性褶曲。

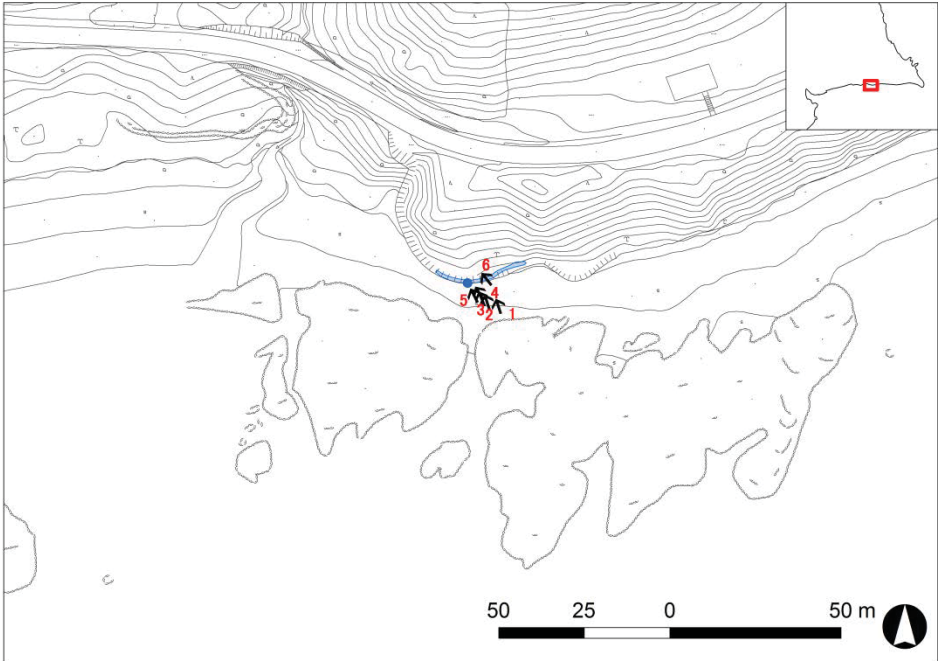


写真 (No.136⑤)  
同上。  
写真右上から中央  
下にかけて断層が  
みられ、断層破碎  
面に黄褐色を呈す  
る粘土が観察され  
る。



写真 (No.136⑥)  
同上。  
露頭の左奥は崖の  
上部から崩壊し堆  
積した黄褐色を呈す  
る土壌が覆いかぶ  
さっている。

付表- 4.2.2.43(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果(No.137)

No.	137
種類	嘉陽層の露頭(褶曲)
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 7 月 1 日及び 7 月 2 日
概要	辺野古崎の西方約 1,050m の辺野古崎西方海岸の海蝕崖にみられる嘉陽層の露頭で、複数の非対称褶曲が観察できる。「名護・やんばるの地質」(名護博物館、2011)の p113 の第 12.143 図に非対称褶曲として紹介されている。
位置	 <div data-bbox="408 1272 842 1442" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【No.137 観測点座標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緯度:26° 31' 14.7664"</li> <li>・経度:128° 02' 35.5091"</li> <li>・標高(EL):1.688m</li> <li>・標高(DL):2.851m</li> </ul> </div>
形状・構造	辺野古崎の西方、辺野古崎西方海岸の海蝕崖にみられる嘉陽層の露頭で、非対称の褶曲が発達する。No.136、No.138 の露頭の間位置し、連続している。露頭の向かって左側に発達する褶曲の付近の走向・傾斜は、N10E、20° (WNW)で、西北西向きに傾いている。
規模	高さ7~8m の海蝕崖で、幅は約 20m の露頭である。写真 No.137②③④⑤に写っている赤白ポールの右側にも左側にも見事な非対称褶曲が観察できる。
その他 (保存状態)	保存状態は比較的良好であるが、海岸の砂浜の堆積がより厚くなると、露頭が埋まり、見えにくくなることが予想される。



代表地点の周辺4方向からの写真

【No.137 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 14.7664"
- ・経度:128° 02' 35.5091"
- ・標高(EL):1.688m
- ・標高(DL):2.851m



調査地点:No.137(嘉陽層の露頭(褶曲))

撮影日時:2014.7.1 10:29



位置情報:緯度 26° 31' 14.50"  
経度 128° 02' 35.45"  
撮影方向:北北西



位置情報:緯度 26° 31' 14.50"  
経度 128° 02' 35.72"  
撮影方向:北北東



位置情報:緯度 26° 31' 14.75"  
経度 128° 02' 35.80"  
撮影方向:北東



位置情報:緯度 26° 31' 14.68"  
経度 128° 02' 35.31"  
撮影方向:南南東



写真



写真 (No.137①)  
 嘉陽層の露頭。  
 非対称褶曲がみられる。  
 東側に隣接する  
 No.136 の露頭と西  
 側に隣接する  
 No.138 の露頭に挟  
 まれ、連続した露頭  
 が観察できる。



写真 (No.137②)  
 同上。  
 非対称褶曲。



写真 (No.137③)  
 同上。  
 非対称褶曲。



写真



写真 (No.137④)  
同上。  
非対称褶曲。

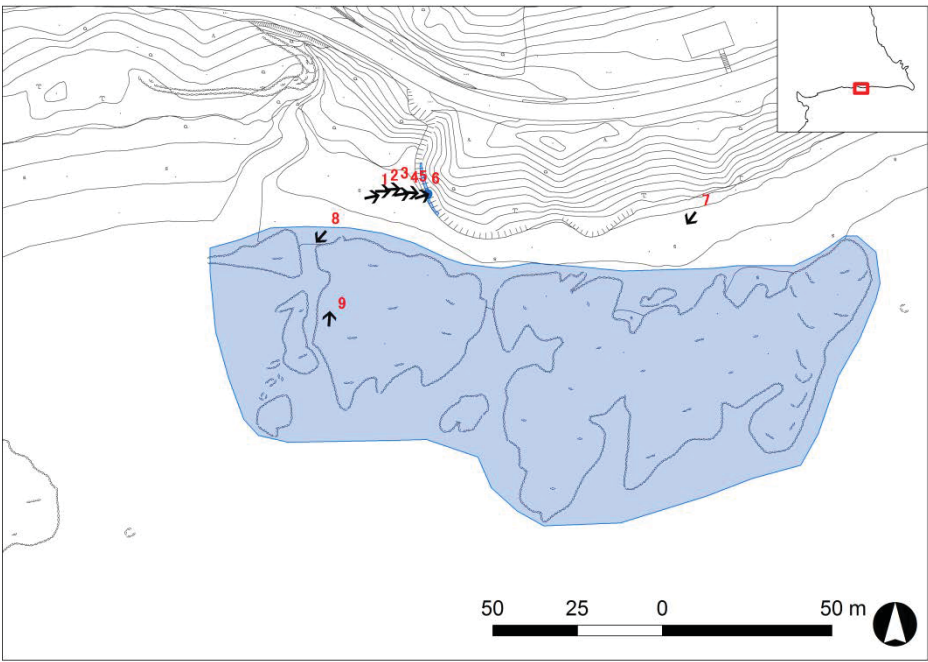


写真 (No.137⑤)  
同上。  
非対称褶曲。



写真 (No.137⑥)  
同上。  
非対称褶曲。  
クリノメーターが位置する嘉陽層の砂泥互層の走向・傾斜は、N10E、20°(WNW)で西北西向きに傾いている。

付表- 4.2.2.44(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果 (No. 138)

No.	138
種類	嘉陽層の露頭(褶曲)、波蝕棚
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 7 月 1 日及び 7 月 2 日
概要	辺野古崎の西方、約 1,050m に位置する嘉陽層の露頭で、No.137 の露頭に隣接する。非対称褶曲がみられる。その沖合には、海岸線沿いに幅約 150m、沖合に向かって約 50~80m の波蝕棚が広がっている。
位置	 <div data-bbox="411 1211 847 1384" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【No.138 観測点座標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緯度: 26° 31' 15.1920"</li> <li>・経度: 128° 02' 34.9498"</li> <li>・標高(EL): 1.516m</li> <li>・標高(DL): 2.679m</li> </ul> </div>
形状・構造	辺野古崎の西方、辺野古崎西方海岸の高さ 5~6m の海蝕崖に嘉陽層の露頭がみられ、褶曲が発達する。嘉陽層の互層は波状の縞状構造を示し、写真 No.138③④⑤の赤白ポールの右側の走向・傾斜は N10E、35° (WNW)、左側では N40E、16° (NNW) である。また、この露頭の前面の海域には嘉陽層の波蝕棚が広がり、その走向・傾斜は S30W、25° (NW) で北西に傾いている。
規模	嘉陽層の露頭の規模は、高さ 3~4m 前後、幅約 20m。波蝕棚はその前面に位置し、海岸線沿いに約 150m、沖合に約 50~80m の範囲である。
その他 (保存状態)	保存状態は良好であるが、砂浜の拡大により波蝕棚が砂に埋没しやすい状況にあり、同様に嘉陽層の露頭の下部が砂に埋まり、見えにくくなっている。



代表地点の周辺 4 方向からの写真

【No.138 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 15.1920"
- ・経度:128° 02' 34.9498"
- ・標高(EL):1.516m
- ・標高(DL):2.679m



業務名 S15770420(陸域生物圏調査) 項目 地形変化区域における重要な地形・地質記録 地形・地質の記録 調査地点 代替施設本体/38 期日 平成26年7月/日 受注者 (株)ブレック研究所

調査地点:No.138(嘉陽層の露頭(褶曲)、波蝕棚)

撮影日時:2014.7.1 10:31



位置情報:緯度 26° 31' 14.99"  
経度 128° 02' 34.58"  
撮影方向:東



位置情報:緯度 26° 31' 14.86"  
経度 128° 02' 34.76"  
撮影方向:北東



位置情報:緯度 26° 31' 14.77"  
経度 128° 02' 34.92"  
撮影方向:北東



位置情報:緯度 26° 31' 15.21"  
経度 128° 02' 24.71"  
撮影方向:東南東



写真



写真 (No.138①)  
嘉陽層の露頭。  
非対称褶曲。  
写真右側は、  
No.137 の露頭に連  
続する。



写真 (No.138②)  
同上。  
嘉陽層の露頭。  
非対称褶曲。



写真 (No.138③)  
同上。  
嘉陽層の露頭。  
非対称褶曲



写真



写真 (No.138④)  
嘉陽層の露頭。  
非対称褶曲。  
斜面上部に黄褐色  
を呈する洪積世の  
堆積物が載っている。



写真 (No.138⑤)  
同上。  
嘉陽層の砂泥の互  
層は波状の縞状構  
造に変形している。  
赤白ポールの右側  
約 1.5m の走向・傾  
斜は N10E、35°  
(WNW)、左側約 2m  
の走向・傾斜は  
N40E、21° (NW)。  
写真の下の方に  
黒色味の強い層が  
みられる。



写真 (No.138⑥)  
同上。  
嘉陽層の露頭。  
非対称性褶曲。



写真



写真 (No.138⑦)  
嘉陽層の褶曲のある露頭の沖合に嘉陽層の波蝕棚が広がっている。  
汀線付近には砂が堆積し、波蝕棚を覆っている。



写真 (No.138⑧)  
同上。  
汀線から約 10m 沖合の波蝕棚の走向・傾斜は、N30E、20° (NW) で北西に傾いている。



写真 (No.138⑨)  
同上。  
波蝕棚の汀線付近には非対称性褶曲がみられる。